

がん経験後の生殖医療のために受診中あるいは受診経験のある  
患者さんまたはご家族の方へ  
(臨床研究に対するご協力をお願い)

獨協医科大学埼玉医療センターリプロダクションセンターでは、上記の病気で受診された方の診療情報（カルテ情報）を使用して臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、ご協力いただけない場合であっても今後の治療に不利益を受けることはありません。

本研究への協力を望まれない患者さんおよび本研究の詳しい内容（実施計画書・関連資料等）について閲覧になりたい方は、下記の【問い合わせ先】までご連絡をお願いします。

【研究課題名】

当院リプロダクションセンターにおける CAYA がん患者の生殖医療診療の現状

【研究の背景と目的】

若年がん経験者の生命予後は改善してきており、がん経験者の妊孕性温存療法は普及してきています。しかし、妊孕性温存療法を行わなかった、あるいは試みても温存できなかった方についてはあまり研究が進んでおりません。また、がん経験者に対する不妊治療の現状について成績や転帰についても明らかになっておりません。小児がんの生存率は成人がんより高く、小児がん経験者の治療後の生活の質を考えると自分の子供を得られるかどうかは重要な課題となります。そこで今回の研究では若年がん経験者、および小児がん経験者で妊孕性温存の目的でリプロダクションセンターを受診された方のカルテ情報を使用して、妊孕性温存療法を含めた生殖医療の現状について調査し、よりよい情報提供のあり方を考えていきます。

【対象となる方】

がん経験者で 2020 年 4 月から 2023 年 10 月までに妊孕性温存を目的にリプロダクションセンターを受診された婦人科癌以外の方。

【使用する診療情報】

使用する診療情報は以下のとおりです。なお、収集したデータは、研究責任者のもと適切に保管・管理致します。

年齢、がん発症時年齢、当院受診時年齢、原疾患名、受診目的（妊孕性温存の相談、不妊治療、その他）、妊孕性温存療法の実施の有無、施行した方法（卵子凍結、受精卵凍結、その両方）、凍結した卵子及び受精卵の使用の有無、凍結した卵子及び受精卵を使用した妊娠出産の有無、施行しなかった場合のその理由（経済的理由、治療専念、その他）  
がん治療後の不妊治療の実施の有無、治療内容（体外受精、人工授精）、がん治療後の不妊治療での妊娠出産の有無

【研究期間と参加予定人数】

この研究は当院臨床研究倫理審査委員会承認後、病院長の許可日（2024 年 4 月 30 日）から、2024 年 12 月 31 日まで実施された、42 名の患者さんが対象となっております。

【個人情報の保護】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定出来る個人情報は削除し、収集されたデータは、個人が特定できないよう通し番号などで匿名化されたのち解析を行います。また、使用したカルテ情報を廃棄する際も個人情報を削除して廃棄いたします。

【結果の公表】

この研究の研究成果は埼玉産科婦人科学会雑誌へ投稿される予定ですが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

【研究責任者】

獨協医科大学埼玉医療センター リプロダクションセンター 杉本公平（教授）

【問い合わせ先】

獨協医科大学埼玉医療センター リプロダクションセンター 担当者：池永晃大（助教）  
埼玉県越谷市南越谷 2-1-50 電話番号：048-965-2028（医局直通） 月・火・木・金曜日 9時～17時

以上